

衆生

この記事には**複数の問題**があります。改善やノートページでの議論にご協力ください。



- 出典**がまったく示されていないか不十分です。内容に関する **文献**や**情報源**が必要です。（2017年7月）
- 独自研究**が含まれているおそれがあります。（2017年7月）

衆生（しゅじょう、梵: sattva सत्त्व、巴: satta सत्त、梵: bahujana बहुजन、梵: jantu、梵: jagat）は、一切の生きとし生けるもの（生類）のこと^[1]。普通は、迷いの世界にある生類を指すが、広義に**仏**・**菩薩**をも含めることがある^[1]。

目次

訳語

意味

解釈

異生

縁生

脚注

注釈

出典

関連項目

訳語

玄奘訳では有情(うじょう)と表記する。「梵に薩埵(さった)という。ここに有情という。情識あがゆえに」(*唯識述記*)といわれるように、感情や意識をもっているものの意味で、山河大地などの非情(ひじょう)に対して、一切の生きとし生けるものを含めていう。多くのものが共に生存しているという意味でバフジャナ（梵: bahujana）ともいわれ、これは衆人とも訳される。

衆生という訳語のほか、有情、含識、含生、含情、含靈、群生、群萌、群類などの訳語がある^[注釈 1]。

意味

衆生の中には、人間だけでなく、動物など他の生命も含まれている。したがって、衆生や有情という言葉は、広い意味に用いられる。一般的には、**十界**（**地獄**、**餓鬼**、**畜生**、**修羅**、**人間**、**天上**、**声聞**、**縁覚**、**菩薩**、**仏**）の中でも前半の六道にあるものをさす。

人間は、**サンスクリット語**でマヌシャ（manuṣya मनुष्य）といわれ、ヨーロッパでのマン（英: man）やメンシュ（独: Mensch）と同じく「考えるもの」という意味である。

仏教では人間とは人間の境界のことである。（中国語では、「人間」とは人の社会のことであって、個人ではなく、人びとと共にある世界のことである。）仏教では、主として思考を中心に生きているものという意味である。仏教の中に自分の在り方を求める場合、衆生という表現の方が人間と呼ぶより本来的である。サンスクリット語のサットヴァ (sattva)、パーリ語のサッタ (satta) は、「生きているもの、存在するもの」という意味である。これを「衆生」と訳した中国人の受け取り方に、人間の在り方への深い反省がみられると同時に、そこには仏教の思想がよく言い表されている。

解釈

異生

衆生と訳されるバフジャナ (bahujana) は、多くのものと一緒に生存している**衆多之生**（しゅうたのしょう）を意味する。輪廻転生していろいろな生をめぐる人間の姿への反省からいわれる。これを、人間はみな別々の生活を営んでいるという点から「異生いしょう」と同じ意味とみることがある。

異生は、サンスクリット語のプリタグジャナ (pRthagjana पृथग्जन)、チベット語のソソル・ケボ (so-sor-skyes-bo) であり、しばしば**凡夫**(ぼんぷ)と同じ意味である。各自の担っている**業**(ごう、karman)、現に造りつつある業によって生きている。日々心で考え、話し、行動する。この人間の心と言葉と行為は、それぞれの人びとの生活の仕方を決定し、規定づける。これによって、幸福も不幸も、一切の生活は自己の責任において行なわれる。このように、自己の生活を自己の責任において考えていく生き方こそ、もっとも人間らしい生き方であるとするのが、**衆生**と呼んで自己を見つめた仏教徒の態度を示している。

縁生

漢訳仏典では、衆生を**衆縁所生**（しゅうえんしょしょう）と分析する。この場合は、一般にいろいろな原因と条件が組み合わさって、いろいろな結果を生み出すのであるから、このわたくしの生存は、単一の原因だけでなく、多くの条件によるのだと、外からの条件を重くみる考え方と思われる。この解釈の根源は、**釈迦**の正覚の内容といわれる**縁起**（えんぎ）による、**縁生**（えんしょう）である。すなわち、あらゆる存在は、自分自身に存在性をもつものではなく、他によって存在性が与えられて存在するということである。すべての存在は、もともと**空**(くう)でありながら、そのまま縁起して有(う)である。

自らに即して言えば、わたくしは独りでは生きられず、他と関係することによってだけ生きられるのである。時間的には過去と未来を離れて現在のわたくしはありえないし、社会的には無限ともいべき多くの横とのつながりにおいて生きている。これが、自己を**衆縁所生**と解釈することによる衆生の意味である。

脚注

注釈

- ¹ [^] 含識とは、心識を有するものという意味[]]。群生、群萌、群類は、多くの生類という意味[]]。

出典

- ¹ [^] ^a ^b ^c ^d ^e 総合仏教大辞典編集委員会（編）『総合仏教大辞典』上巻、法蔵館、1988年1月、668頁。

関連項目

- 四生

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=衆生&oldid=64961655>」から取得

最終更新 2017年7月31日 (月) 07:20（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストは[クリエイティブ・コモンズ表示-継承ライセンス](#)の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。